

(別記)

(公表様式 1)

新潟県福祉サービス第三者評価結果公表基準

① 第三者評価機関名

公益社団法人新潟県社会福祉士会

② 施設・事業所情報

名称：米山台保育園	種別：保育所	
代表者氏名：園長 高取 美和子	定員：50名	
所在地：〒945-0843 新潟県柏崎市米山台東 4649-6		
連絡先電話番号：0257-22-6830	FAX番号：0257-22-6830	
ホームページアドレス	http://www.yoneyamadai.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：昭和 58 年 4 月 1 日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 柏崎市保育事業協会		
職員数	常勤職員：12名 非常勤職員：5名	
専門職員	保育士 14名	
	管理栄養士 1名	
	栄養士 1名	
施設・設備の概要	保育室 43.05 m ²	乳児室 14.91 m ²
	ほふく室 43.05 m ²	給食室 16.56 m ²

③ 理念・基本方針

【理 念】 ・ 保育園相互の情報の共有を図り、健全で効率的な運営を目指す
・ 子ども一人ひとりを大切にし、保護者から信頼され、地域に愛される保育園を目指す
・ 職員の資質向上のため研修に努め、チームワークを根幹として、健全で安全な保育環境の整備充実を期する

【基本方針】 豊かな感性や心をもった子どもを育てる。

④ 施設・事業所の特徴的な取組

延長保育、障害児保育、未満児保育、アレルギー対応、一時保育、未就園児保育園開放、福祉施設（老人ホーム）訪問・交流

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成 28 年 9 月 1 日（契約日）～ 平成 29 年 7 月 24 日（評価結果確定日）
--------	--

⑥ 総評

◆ 特に評価の高い点

○基本方針「豊かな感性や心をもった子どもを育てる」の実現に向けて様々な活動が行われている。

基本方針実現に向け、「(1) 丈夫な身体、元気な子ども (2) 思いやりのある子ども (3) 意欲を持つ子ども (4) 自分で考えて行動できる子ども (5) 命を大切にする子ども」という5つの保育目標が定められている。具体的な保育実践として「リトミック」を取り入れている。音楽を通して運動能力や社会性、言葉の発達を促し子ども自身の表現する力を育むことを目的に、2歳児から、専任講師を招いて月に2回取り入れている。月2回のリトミック教室とは別に日常からリトミックを生活に取り入れることが出来るように、職員は月に1回専任講師の指導を受けている。この活動を通して、子どもたちが表現する楽しさを知り、遊びの中に取り入れている姿が見られるようになったと園長は感じている。また、年中児になると取り組む「和太鼓」は米山台保育園の伝統として引き継がれている。和太鼓については表現する楽しさを味わうだけでなく「礼儀・道具の扱い方・心をひとつにすることの大切さを学ぶ」というねらいもあり、地域のお祭りや夕涼み会での発表を通してその活動を広く地域へも発信している。平成28年度は、夕涼み会で卒園児が「和太鼓」を披露しており、伝統として保育園のみならず地域にも根づいている。ほか、月1回専門講師を招いての体育教室や小学校の運動会でのカラーガードの発表など、理念の実現に向けて様々な活動を取り入れている。これらの活動について、今回の第三者評価における保護者のアンケートでは「家庭ではなかなか経験できないことを子どもにチャレンジさせてもらい感謝している」「子どもには良い経験だと思う」等の意見があり、保護者の満足度も高いことがうかがえた。

○主体的に自然に関わることが出来るよう環境を整備したり、人間関係を深める保育実践を行っている。

保育園のパンフレットには「高台に建ち自然環境は最高です。季節によっては、園庭に野兎や野鳥の姿を見ることが出来ます。」と記載されている。春には園庭でお花見給食をしたり、冬には園庭に隣接している裏山で動物の足跡探しをしたり、計画的に戸外遊びを取り入れ子どもたちが主体的に自然と関わる事が出来るよう保育実践を行っている。今回の第三者評価における訪問調査時にも、少し肌寒い中、防寒具を着て園庭で遊んでいる姿が見られた。訪問調査時のヒアリングでは、職員から「自然がいっぱいなので、自然を通して様々な経験をすることが出来る環境が米山台保育園の良いところの一つです」との話もあり、月間指導計画でも自然の中で四季を感じる事が出来るよう計画、実践されていることが確認できた。

また、人間関係を深めるために「遊び込める環境」について現在職員で玩具等の検討を行っている。おままごとの場面では、保育者が関わって遊びが発展し子ども同士の遊びにつなげていけるよう配慮している。朝の自由遊びでは0歳児から5歳児までが遊戯室で遊ぶ時間が確保され、異年齢の交流も盛んに行われている。また、4・5歳児には朝の「あいさつ当番」活動が行われている。訪問調査当日もたすきを掛けた2名の園児が、登園してくる保護者や業者の方に元気よく「おはようございます」と玄関で挨拶をしていた。この当番活動を通して挨拶の大切さを子どもたちに伝えると同時に様々な人と主体的に関わることが出来るようにこの活動を続けていきたいと園長は考えている。

○地域の子育て家庭への支援を行っている。

保育理念「地域に愛される保育園を目指す」に基づき、様々な取り組みを行っている。一時保育は保護者の就労形態や傷病、冠婚葬祭、リフレッシュ等に応じて最大14日を限度

に利用することができ、平成 27 年度は延べ 53 名の利用者があった。5 月から月 1 回行っている園開放は、平成 27 年度は延べ 151 名の利用者があった。園開放で園の生活を体験するとともに保護者へは育児相談を行っている。これまでの取り組みで把握したニーズにより一時保育や園開放を行ってきたが、これらの取り組みによりさらにニーズ把握に努め地域の子育て家庭への支援を強化していきたいと園長は考えている。また、保育園の持つ機能をより一層地域に還元できるように、情報発信の在り方や地域町内会との連携の必要性を感じており、今後のさらなる取り組みが期待できる。

◆ 改善を求められる点

○職員の教育・研修に関する基本方針、研修体系の構築が求められる。

職員の質の向上に向けて園内研修や外部研修受講を行っている。園内研修は月に 1 回担当職員が自らテーマを決めて行い、法人 3 保育園合同でリトミックの実技研修も行っている。外部研修は、職員の経験年数や担当クラスなどの状況に合わせた研修に参加できるよう、園長、主任保育士が決めて派遣している。外部研修受講後は職員会議の場や必要に応じて園内研修の場を使い報告している。しかし、今回の第三者評価における職員自己評価では、「専門的に向上できる体制があり良いと思う」という職員の自己評価コメントがある一方、「研修成果、良かったことはパートにも教えてほしい」という意見もあり職員間での差が見受けられる。

事業計画や中期・長期計画における人材育成の記載は、研修方法の内容にとどまり、職員に組織が求める基本姿勢や専門性を明示しているとまでは言い難い。園長は、研修の充実を図り人材育成に力を入れていきたいと話しており、中期・長期計画、それに基づく事業計画にも基本方針および組織が求める職員像について記載できるよう、現在作成中である。また、今後導入予定の人事考課制度の運動も視野に入れ職員個別の教育・研修計画の策定も予定している。今後の取り組みに期待したい。

○ヒヤリハット報告の収集を行いリスクの把握を行っているが、対応策をマニュアルに反映させるまでには至っていない。

ヒヤリハット報告は「事故の内容」「発生日時」「発生場所」「発生の状況」「発生後の対応」「原因等」「今後の対応」について記載したものを回覧、及び必要に応じて終礼等で職員に周知している。事故防止マニュアルは 0 歳児、1 歳児、2 歳児、3 歳以上児に分けて作成され、「発達の特徴」「安全管理」「安全管理（屋外）」の項目について発達段階における配慮事項を具体的に記載しており、各部屋に掲示し日頃から職員の目に触れやすいようにしている。しかし、マニュアルの定期的な周知の取り組みと、ヒヤリハット報告を活かしマニュアルに反映させるまでには至っていない。今後は、ヒヤリハット報告で収集した事例の反映に必要性を園長は認識しており、事故事例や事故防止の対応策の定期的な評価を組織的に行うことで事故防止マニュアルの充実につながるようさらなる取り組みに期待したい。

○「年間指導計画」と「月間・週間指導計画及び日誌」について関連性を明確にした記載が求められる。

「年間指導計画」は各学年ごとに作成されているが、現在、4・5 歳児は人数の都合により合同クラスで保育を行っており「月間・週間指導計画及び日誌」についても合同計画となっている。「年間指導計画」は 4 期（4 月～6 月・7 月～9 月・10 月～12 月・1 月～3 月）ごとに保育士の自己評価が行われているが、「月間・週間指導計画及び日誌」により行った保育の反省評価との関連性が記録からは読み取れなかった。記載内容についても、「年間指導計画」は領域別（生命の保持、情緒の安定、健康、人間関係、環境、言葉、表現）について計画されているが、「月間・週間指導計画及び日誌」では領域のねらいの反映が分かり難い。保育課程に基づいた日々の保育の実践については、発達段階の見通しや連続性の担保のため、長期計画と短期計画が関連性をもって作成される必要がある。この状況につい

て改善が必要だと園長は認識しており、関連性を明確にした記録について職員で検討をする予定である。今後の取り組みに期待したい。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

(H29. 6. 28)

- ・昭和 58 年、当事業協会が初めて民営保育園として米山台保育園を開設し 34 年の歴史ある保育園です。
理念に基づいて「子ども一人ひとりを大切にし保護者から信頼され地域に愛される保育園を目指す」とし、「豊かな感性や心を持った子どもを育てる」という基本方針の中で 5 つの保育目標「丈夫な身体、元気な子ども」「思いやりのある子ども」「意欲を持つ子ども」「自分で考えて行動できる子ども」「命を大切にする子ども」をしっかりとふまえて日々の保育を行っています。
古き良き伝統を残しながらも保護者のニーズに応じて保育を進めていきたいと思ひます。
- ・今回初めて第三者評価受審ということで不安もありましたが、ありのままを評価していただき、保育園の「強み」「弱み」を知ることで、利用者にとっても働く職員にとっても魅力ある保育園を目指すことができると考えました。
第三者評価も定期的に受審し公表することで、内部・外部両面から指摘事項を受けて経営改善を図り、質の向上に努めていきたいと思ひます。
今回の結果をふまえて、職員参画の基、地域・利用者に愛される保育園を目指し、これからは常に創意・工夫の保育を心がけていきたいと思ひます。

(園長 高取 美和子)

(H29. 6. 28)

- ・保護者から満足していただいていることが良かった。甘んずることなくしっかり仕事をしていきたい。
- ・障害児保育に関する研修を受けていることで「a」でしたがもっとたくさんの方が参加して学習すると良い。
- ・給食関係で高く評価されていて嬉しい。今後さらに食育を重視して頑張りたい。
- ・いろいろな面でマニュアルの必要性を改めて感じた。計画、実行、評価、改善というサイクルを行い、より良いサービスをしていきたい。
- ・園全体の細かいところまで理解できていないので知る努力をし、評価の意味を正しく理解できるよう園の一員としてしっかり考えていきたい。
- ・カラーガードや和太鼓は保護者から評価が高いのでこれからは受け継いでいきたい。
- ・乳児室等の衛生面で良い評価を受けているのでしっかり維持していきたい。
- ・保育理念の実現のため意識した保育を心がけ自分自身の保育力を高めていきたい。
- ・受審をしてやらなければいけないこと(書類など)が増え大変だと思ひましたが、結果を見てそれぞれの重要性を感じた。改善が必要なところはしっかり見つめ直して改善したい。
- ・匿名の保護者アンケートの評価が怖かったが予想より良くうれしかった。評価を下げないよう努力したい。
- ・一緒に仕事をする先生方の想いや考えを感じ取ることができ自分自身を見直すきっかけになった。
- ・指導計画は関連性、連続性の面で見直しを求められていると思ひます。
- ・すべてにおいて「職員の参画」というところは定着させなければいけない部分だと思ひます。
- ・第三者評価の結果をふまえて保育のあり方をはじめ、あらゆることを職員で検討する場が必要と感じた。

(職員の感想)